

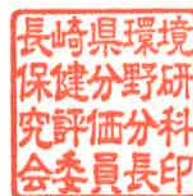
平成27年度
長崎県研究事業評価委員会
環境保健分野研究評価分科会
報 告 書

平成27年9月30日

長崎県研究事業評価委員会環境保健分野研究評価分科会は、「長崎県政策評価条例」、「政策評価に関する基本方針」にもとづき、長崎県研究事業評価委員会委員長から依頼があった研究内容について調査・審議を行なったので、次のとおり報告するとともに、意見を申し述べる。

平成27年9月30日

長崎県研究事業評価委員会
環境保健分野研究評価分科会
委員長 中 島 憲一郎



1 評価日および場所

平成27年9月8日（火） 於：長崎タクシー会館

2 審議案件（3件）

經常研究：事前評価3件

3 分科会委員

氏名	役職	備考
中島 憲一郎	長崎国際大学副学長（薬学部 教授）	委員長
山下 樹三裕	長崎大学環境科学部 教授	副委員長
坂井 秀之	協和機電工業株式会社 代表取締役社長	
澤井 照光	長崎大学医学部保健学科 教授	
永井 正彦	三菱重工業株式会社 技術統括本部 総合研究所 化学研究部 主幹研究員	
松永 淳一郎	公益社団法人 長崎県食品衛生協会 理事検査部長	

4 総合評価

総合評価段階は下表のとおりであった。

評価対象		総合評価				課題数
種類	時点	S	A	B	C	
経常研究	事前		3			3

※総合評価の段階
 (事前評価)
 S＝積極的に推進すべきである
 A＝概ね妥当である
 B＝計画の再検討が必要である
 C＝不適當であり採択すべきでない

研究テーマ別評価一覧表

種類	時点	研究テーマ名	研究機関	総合評価	
				機関長 自己評価	分科会 評価
経常研究	事前	内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究	環境保健研究センター	A	A
		食中毒起因マリントキシンの迅速スクリーニングに関する研究		S	A
		長崎県におけるエンテロウイルス感染症の分子疫学解析		A	A

5. 研究テーマ別コメント

(1) 経常研究（事前）

○内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究

研究概要：諫早湾干拓調整池(調整池)における内部生産と難分解性溶存有機物の実態を把握し、淡水性二枚貝(イケチョウガイ、ニセマツカサガイ、マシジミ等)による効率的な水質浄化手法の確立を目指す。

必要性：長期にわたり環境基準を超過している諫早湾干拓調整池の水質保全に関する研究は、水質保全対策のみならず、周辺地域の環境保全対策のためにも必要性の高いものものである。

効率性：事前に滋賀県の先行研究機関から情報収集し、連携して計画されており、効率的な研究が期待できる。
自然を対象とした研究であり、二枚貝の生育条件や浄化特性は実験室とフィールドでは大きく異なると思われる。現在、調査地点は3か所が予定されているが、もう少し増やすなど調査計画の再検討が必要。

有効性：革新的な技術とはいえないが、期待どおりの成果が得られれば、調整池の水質浄化に有効な手法となる。放流した二枚貝の成長後の処理（取出し）について検討しなければ持続的な対策とはならず、調査計画内容追加の検討が必要である。

総合評価：長崎県にとって取り組むべき課題である。淡水系閉鎖性水域の基礎的研究であり、メンテナンスフリーな水質浄化法として展開することができれば、全国的な対策手法として期待される。共同研究者と十分に連携して研究を実施していただきたい。

○食中毒起因マリントキシンの迅速スクリーニングに関する研究

研究概要：食中毒原因を迅速に特定・推定するための自然毒精密質量ライブラリーを作成し、死亡例のあるマリントキシン検出を機器分析及び細胞毒性手法を用い検討する。

必要性：地球温暖化等により海洋環境の変化は著しく、海産物による食中毒対策は、本県ではマリントキシンによる死亡例も発生しており、非常に重要である。本県は水産県でもあり、本研究成果は経済や医療への効果も期待され、必要性の高い課題である。

効率性：新しいスクリーニング検査法の開発であるが、大学等との協力体制が整えられており、相乗的な効果も期待される。目標は30成分となっているが、データベースとしては少ない。

有効性：データベースを構築することは、食中毒の原因調査に有効である。他の機関とのデータ共有について、国などと連携して検討すること。水産物の毒化プロセス究明についても検討して欲しい。

総合評価：迅速な検出法の開発により、マリントキシンの実態を解明し、県内水産物の安全・安心確保につながる本研究は、水産業の推進、県民の健康を衛るうえで有効な研究である。原因（食物連鎖による毒化）対策につながる研究となることを期待している。

○長崎県におけるエンテロウイルス感染症の分子疫学解析

研究概要：長崎県内のエンテロウイルス（EV）が疑われる患者検体を用いて、EV遺伝子の検出及び分子疫学解析を行い、県内流行のトレンドを明らかにするとともに、重症化に關与するウイルス側因子の探索を行う。

必要性：県内でも死亡例があり、新生児にとって致命的となりうるEV感染症に關する本研究は、重症化に關与するウイルス側の要因を究明するもので、必要性は高い。

効率性：他の研究機関との連携により、検体入手やデータ解析の協力体制が整えられており、効率的な研究が期待できる。
他の研究機関ともデータや知見の交換交流を行い、有意性の向上とスピードアップを図って欲しい。

有効性：県民の健康を衛るうえで有効な研究であり、成果が大いに期待される。研究成果は産科医、小児科医をはじめ県民へ迅速に提供することを検討して欲しい。

総合評価：研究成果が県民の生活に大きく影響を与えるものであり、県の研究として、大いに期待される研究である。
医療機関との連携も取れており、病原性ウイルス等の遺伝情報の整備により、医療現場での活用、予防対策にもつながることから、迅速な情報発信方法を含め研究を推進されたい。

6 分科会総評

- 県政へ反映させることが重要である。分科会では具体的な提案をおこなったので、研究の方向性、方法など内容を修正しながら、より具体的に、実効性のある研究を進めて欲しい。
- 3つの課題について検討したが、良い成果が得られるよう、環境保健研究センター全体の課題として、協力体制を整えて、効率的に研究を進めて欲しい。
- 県の機関として、きちりと測り、データを蓄積することは非常に重要である。そのためにはベースとなる分析技術が重要である。
- 県民に、研究の出口をもっとわかりやすくアピールして、県民の納得を得ながら研究を進めて欲しい。

7 その他報告事項

環境保健研究センターが実施する研究について

(参考) 環境保健分野研究評価分科会評価一覧表

	課 題 名	視 点	機関長 自己評価	分科会 評価
事 前	内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究	必 要 性	S	S
		効 率 性	A	A
		有 効 性	A	B
		総合評価	A	A
	食中毒起因マリントキシンの迅速スクリーニングに関する研究	必 要 性	S	S
		効 率 性	S	A
		有 効 性	A	A
		総合評価	S	A
	長崎県におけるエンテロウイルス感染症の分子疫学解析	必 要 性	S	S
		効 率 性	A	A
		有 効 性	A	A
		総合評価	A	A

